

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立津高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	自由な校風と「自主・自律」の校訓のもと、 高い知性と教養を持ったリーダーが育つ学校	
(2)	育みたい資質・ 能力(育みたい 生徒の姿) 【グラデュエーショ ン・ポリシー】	1 「知・徳・体」の調和がとれ、「自主・自律」を実践できる生徒 2 主体的に学び、粘り強く努力することで、生涯にわたって自己実現を図るとともに、心豊かで、高い志を抱いて社会に貢献できる生徒
	ありたい 教職員の姿	1 子どもたちに対する愛情にあふれ、豊かな人間性、人権感覚を備えた教職員 2 目指す学校像の実現に向け、前向きでチャレンジ精神にあふれ、自らの専門性を高め、「チーム」として協力し合って教育活動に取り組む教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことへの意欲が向上し、能動的に取り組むことができる授業 ・安全・安心で充実した学校生活と一人ひとりが大切にされる教育活動 ・総合的な学力の伸長と希望する進路の実現 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学力の向上と人間的成長、希望する進路の実現に向けた教育活動 ・安全・安心で充実した学校生活と一人ひとりが大切にされる教育活動 <p><地域社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で信頼される伝統進学校として、将来の社会を創造する市民を育成 ・地域の活性化につながる教育活動 	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な学校生活・学習環境 ・子どもの人間的成長と進路希望実現 <p><地域社会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の学力向上および人間的成長 ・学習活動における連携・協力 2 地域社会 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとしての資質や態度の育成 ・生徒の地域活動への積極的な参加 3 大学、研究機関等 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的研究への理解と興味・関心の喚起 ・人的、物的な教育資源の活用 4 卒業生(同窓会) <ul style="list-style-type: none"> ・「自主・自律」の伝統継承 ・生徒が高い志(進路希望)を実現 	<p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校教育方針への理解と協力 ・相互の信頼に基づく連携・協力 <p><地域社会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・本校教育方針への理解 ・学習活動における連携・協力 2 地域社会 <ul style="list-style-type: none"> ・市民性、社会性を育む学習機会の提供 ・実社会を体験できる機会の提供 3 大学、研究機関等 <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な研究活動の機会や場の提供 ・学問と自身の生き方や在り方、社会貢献について考える機会の提供 4 卒業生(同窓会) <ul style="list-style-type: none"> ・津高の伝統・不易を伝える機会の提供 ・生き方や進路等を考える機会の提供 ・全国的なネットワークを活用した大学生への支援

<p>(3) 前年度の学校関係者評価など</p>	<p>○授業力向上のための互見授業を、時間割を工夫してすべての教職員が参加できるよう実施してもらいたい。</p> <p>○生徒との1対1の面談機会は、生徒の自律を促したり不登校やメンタル不調などを減らしたりするうえでも効果が期待できる。傾聴力など教員のスキルアップに取り組みながら、様々な機会を捉え行ってほしい。</p> <p>○活発な海外交流は学校の魅力向上につながっている。津高校ならではの活性化・魅力化策に積極的に取り組んでほしい。</p> <p>○働きやすい職場づくりは喫緊の課題である。抜本的な解決策を検討すべきだ。</p> <p>○令和8年度から始まる進学型単位制のメリットを最大限発揮できるよう、学校全体の枠組みの改善に取り組むとともに、しっかり情報発信してほしい。例えば、小学校でも学校説明会を行うことによって「津高」で学が素晴らしさを早くから浸透させてはどうか。</p>				
<p>(4) 現状と課題</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="292 607 438 1485"> <p>教育活動</p> </td> <td data-bbox="438 607 1444 1485"> <p>○「自主・自律」の精神を受け継ぐためにも、生徒の「主体的に学びに向かう力」が高まり、高い志の実現に向けて「自走」する状態が生まれるよう、組織的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>○授業アンケートにおける「主体的・対話的で深い学び」を示す項目での達成目標(90%以上)が未達(77%)であることから、互見授業による相互コーチングを高めるなど、各教科で引き続き授業改善を進める必要がある。</p> <p>○年次進行で導入されるiPad等のICT機器を効果的に活用し、より「対話的で深い学び」につなげていく必要がある。</p> <p>○進学型単位制導入を見据え、全教科・科目において授業改善や探究活動を核とするカリキュラム・マネジメントを進める必要がある。各教科・科目において探究的な取組を実施すること及びそれをどのように評価するかについて、継続して議論していく必要がある。</p> <p>○新たに設置した探究・図書部が中心となり、生徒に対し探究活動に必要な読書活動を促し、支援する必要がある。</p> <p>○探究活動の3年間のグランドデザインについて、教職員と生徒が共通認識を持ち、以下のような取組に寄り、更に実行性を高める必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外での体験的な活動への参加者を増やすための工夫・仕掛け ・大学・企業・OB等との協力体制の強化により、学校外の大人との意見交換の場の充実 ・生徒が活動に取り組むための時間を生み出す工夫 など。 <p>○大学入試が多様化する中で、面接指導・小論文指導など個々に応じた対応がより求められている。生徒が可能性を最大限発揮できるよう、教員研修等を通じて一層の指導力向上に努める必要がある。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="292 1485 438 2024"> <p>学校運営等</p> </td> <td data-bbox="438 1485 1444 2024"> <p>○本校の生徒主体の教育活動が県内全体に広く伝わるよう効果的に情報発信する必要がある。</p> <p>○令和8年度からの進学型単位制導入により生徒の「自主・自律」の実践が更に高まることが理解されるよう、戦略的なPRを行う必要がある。</p> <p>○進学型単位制の効果が最大限発揮できるよう、学校設定科目等、カリキュラムの内容、時間割のシミュレーション、初期指導の内容等を精査していく必要がある。</p> <p>○一人一台端末を生徒・教職員双方が効果的に活用できるよう、使用スキル向上のための研修を効果的に取り入れる必要がある。</p> <p>○生徒の学習ニーズが多様化していることから、多様な外部専門機関と連携をさらに進めるとともに、教職員が組織的に対応できるようにする必要がある。</p> <p>○教職員の働き方改革に資するよう、ICTを活用し、校務を効率的に進め、時間外労働時間を減らす必要がある。</p> <p>○定時退校日や部活動休養日の設定等を行うことに加え、校時や年間行事予定の見直しにより、総勤務時間を縮減する必要がある。</p> </td> </tr> </table>	<p>教育活動</p>	<p>○「自主・自律」の精神を受け継ぐためにも、生徒の「主体的に学びに向かう力」が高まり、高い志の実現に向けて「自走」する状態が生まれるよう、組織的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>○授業アンケートにおける「主体的・対話的で深い学び」を示す項目での達成目標(90%以上)が未達(77%)であることから、互見授業による相互コーチングを高めるなど、各教科で引き続き授業改善を進める必要がある。</p> <p>○年次進行で導入されるiPad等のICT機器を効果的に活用し、より「対話的で深い学び」につなげていく必要がある。</p> <p>○進学型単位制導入を見据え、全教科・科目において授業改善や探究活動を核とするカリキュラム・マネジメントを進める必要がある。各教科・科目において探究的な取組を実施すること及びそれをどのように評価するかについて、継続して議論していく必要がある。</p> <p>○新たに設置した探究・図書部が中心となり、生徒に対し探究活動に必要な読書活動を促し、支援する必要がある。</p> <p>○探究活動の3年間のグランドデザインについて、教職員と生徒が共通認識を持ち、以下のような取組に寄り、更に実行性を高める必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外での体験的な活動への参加者を増やすための工夫・仕掛け ・大学・企業・OB等との協力体制の強化により、学校外の大人との意見交換の場の充実 ・生徒が活動に取り組むための時間を生み出す工夫 など。 <p>○大学入試が多様化する中で、面接指導・小論文指導など個々に応じた対応がより求められている。生徒が可能性を最大限発揮できるよう、教員研修等を通じて一層の指導力向上に努める必要がある。</p>	<p>学校運営等</p>	<p>○本校の生徒主体の教育活動が県内全体に広く伝わるよう効果的に情報発信する必要がある。</p> <p>○令和8年度からの進学型単位制導入により生徒の「自主・自律」の実践が更に高まることが理解されるよう、戦略的なPRを行う必要がある。</p> <p>○進学型単位制の効果が最大限発揮できるよう、学校設定科目等、カリキュラムの内容、時間割のシミュレーション、初期指導の内容等を精査していく必要がある。</p> <p>○一人一台端末を生徒・教職員双方が効果的に活用できるよう、使用スキル向上のための研修を効果的に取り入れる必要がある。</p> <p>○生徒の学習ニーズが多様化していることから、多様な外部専門機関と連携をさらに進めるとともに、教職員が組織的に対応できるようにする必要がある。</p> <p>○教職員の働き方改革に資するよう、ICTを活用し、校務を効率的に進め、時間外労働時間を減らす必要がある。</p> <p>○定時退校日や部活動休養日の設定等を行うことに加え、校時や年間行事予定の見直しにより、総勤務時間を縮減する必要がある。</p>
<p>教育活動</p>	<p>○「自主・自律」の精神を受け継ぐためにも、生徒の「主体的に学びに向かう力」が高まり、高い志の実現に向けて「自走」する状態が生まれるよう、組織的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>○授業アンケートにおける「主体的・対話的で深い学び」を示す項目での達成目標(90%以上)が未達(77%)であることから、互見授業による相互コーチングを高めるなど、各教科で引き続き授業改善を進める必要がある。</p> <p>○年次進行で導入されるiPad等のICT機器を効果的に活用し、より「対話的で深い学び」につなげていく必要がある。</p> <p>○進学型単位制導入を見据え、全教科・科目において授業改善や探究活動を核とするカリキュラム・マネジメントを進める必要がある。各教科・科目において探究的な取組を実施すること及びそれをどのように評価するかについて、継続して議論していく必要がある。</p> <p>○新たに設置した探究・図書部が中心となり、生徒に対し探究活動に必要な読書活動を促し、支援する必要がある。</p> <p>○探究活動の3年間のグランドデザインについて、教職員と生徒が共通認識を持ち、以下のような取組に寄り、更に実行性を高める必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外での体験的な活動への参加者を増やすための工夫・仕掛け ・大学・企業・OB等との協力体制の強化により、学校外の大人との意見交換の場の充実 ・生徒が活動に取り組むための時間を生み出す工夫 など。 <p>○大学入試が多様化する中で、面接指導・小論文指導など個々に応じた対応がより求められている。生徒が可能性を最大限発揮できるよう、教員研修等を通じて一層の指導力向上に努める必要がある。</p>				
<p>学校運営等</p>	<p>○本校の生徒主体の教育活動が県内全体に広く伝わるよう効果的に情報発信する必要がある。</p> <p>○令和8年度からの進学型単位制導入により生徒の「自主・自律」の実践が更に高まることが理解されるよう、戦略的なPRを行う必要がある。</p> <p>○進学型単位制の効果が最大限発揮できるよう、学校設定科目等、カリキュラムの内容、時間割のシミュレーション、初期指導の内容等を精査していく必要がある。</p> <p>○一人一台端末を生徒・教職員双方が効果的に活用できるよう、使用スキル向上のための研修を効果的に取り入れる必要がある。</p> <p>○生徒の学習ニーズが多様化していることから、多様な外部専門機関と連携をさらに進めるとともに、教職員が組織的に対応できるようにする必要がある。</p> <p>○教職員の働き方改革に資するよう、ICTを活用し、校務を効率的に進め、時間外労働時間を減らす必要がある。</p> <p>○定時退校日や部活動休養日の設定等を行うことに加え、校時や年間行事予定の見直しにより、総勤務時間を縮減する必要がある。</p>				

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動 【カリキュラム・ポリシー】</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習活動はもとより、スポーツ活動・文化活動等、あらゆる側面で充実した「文武両道」の高校生活を通じて、生徒一人ひとりの「高い志」「挑戦する意欲」「自主・自律の精神」を醸成し、「人間力」を高める。 2. 育みたい生徒の姿の実現のため、教職員一人ひとりが各自の「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、iPad 等を活用し探究的な学びを推進する。 3. 「社会で必要とされる資質・能力が生徒に育まれているか」という視点を大切に、確かな学力の向上を図るとともに、入学から卒業まで見通した進路指導により、生徒一人ひとりの自己実現・進路実現に取り組む。 4. 生徒の自治的な運営による学校行事や生徒会活動等、生命・人権を尊重する心や他者を思いやり人間関係を構築する力の育成に取り組む。 5. 第IV期を迎えた SSH 事業を全校体制で推進し、探究活動をすべての教育活動につなげることにより、生徒に「創造性」「課題解決能力」を育み、世界を牽引する科学技術人材を育成する。 6. 姉妹校(台湾)との交流を通じて、生徒が国際的な視野を広め、英語コミュニケーション能力の向上を図ることができるよう、相互訪問や協同研究を充実させる。
<p>学校運営等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職員の資質能力が向上するよう、様々な課題に「チーム」として取り組む。 2. 教育活動や学校運営について、学校の取組を積極的に発信することを通して、学校・家庭・地域との連携を強化する。 3. ICT を活用し、校務の効率化等の活用総務業務時間縮減に向けた取組や教職員の満足度向上に向けた取組を行い、教職員が情熱とやりがいを持って生徒に向き合い、健康で働くことのできる環境づくりを行う。 4. 学校図書館(津高図書館)において、これまでの「読書センター」「学習センター」としての役割に加え、授業での図書館活用や、探究的な学びの材料や機会の提供による「探究センター」としての役割、また部活動等との連携による「文化・情報センター」としての役割を担うことができるよう、運営の一層の充実を図る。 5. 進学型単位制に対応したカリキュラムや時間割を検討する際、相乗的な効果が生まれるよう校時や学校暦について併せて見直し、学校生活の更なる充実を図る。

4 求める生徒像

<p>入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「自主・自律」を基本とする本校の校風や文化を理解し実践しようとする生徒 2. 「文武両道」を実践し自らを鍛えようという気持ちを持つ生徒 3. 学校生活について、意欲と関心を持って主体的に取り組もうとする生徒 4. 自らの可能性を信じ、失敗を恐れず挑戦しようとする生徒
---	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体的学習者の育成と確かな学力の向上	<p>◇質の高い授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進等に組織的に取り組み、質の高い授業づくりを目指します。 ・積極的な授業見学を促進し、互いに高め合う風土の醸成に貢献します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの実施(年2回) ・ICT活用事例または探究的な学びに関する授業実践報告の実施(各教科年1回) ・研究授業及び検討会の実施(各教科年1回) ・管理職による授業見学(年1回) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート②～⑤の項目が高い水準で実施されていることが「主体的・対話的で深い学び」の実現に不可欠である。以下の項目において「はい」と答えた生徒の割合の平均値(90%以上) <p>項目② あなたはこの授業において「新たに身につけるべき力」や「努力すべきこと」を認識して学習に取り組むことができましたか。</p> <p>項目③ あなたにとって先生の説明や問い、板書やスライド(パワポ)は伝わりやすいものになっていますか。</p> <p>項目④ 先生はあなたが主体的・能動的に取り組む時間を授業中に確保していますか。</p> <p>項目⑤ 先生から授業外で自ら行う学び(家庭学習)についての提案や助言はありますか。</p> <p>◇主体的な学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期指導を充実させ、主体的に学ぶという意識付けをしつつ、徐々に手を離していくことで、生徒の自律を促します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校での学びの習慣の確立及び主体的な学習者としての自覚を促すための特別編成授業の実施(1学年 国数英各3時間) ・学習に必要な基本的なスキルの修得を促す iPad ガイドンスの実施(1学年 6時間) ・意見交換の質を向上させ、対話的で深い学びにつなげるためのロイロノート導入(1学年) ・年度当初に「ガイドンス週間」の実施(全科目) ・情報提供等を行い、充実した類型科目選択になるよう支援する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活についてのアンケート」項目「意欲的に学習に取り組んでいるか」について、生徒の回答の①「できている」および②「だいたいできている」の合計値が80%以上、かつ①の値が33%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート(年2回)を実施しました。前期は②～⑤の項目の平均80.8%で未達でしたが、昨年度の前期に比べて3.8%改善しました。後期は今年度から12月に実施しました。②～⑤の項目の平均83.0%で未達でしたが、前期に比べて2.2%の改善がありました。特に⑤について3.7%の改善が見られ、授業における家庭学習についての発信の充実が確認できました。 ・ICT活用事例または探究的な学びに関する授業実践報告を各教科年1回実施して2月にHPに公開予定です。 ・研究授業を各教科1回実施しました。 ・研究授業及び検討会を実施しました。一部の教科では外部講師を招いて、主体的で対話的な深い学びの実現に向けてより探究的な学びを授業で行う方法論について学びを深めました。 ・国数英+iPadに特化した初期指導を3日間実施しました。 ・ロイロノートを導入することにより1学年ではこれまで以上に端末を活用した授業研究が進みました。今後はより生徒が協働的に学ぶことができるようなしかけとして端末の活用を促進していきます。 ・R7学校生活についてのアンケートの結果。1学年①28% ②53% ①+② 	◎

	【昨年度実績】 1学年(現2学年)① 19% ② 57% ①+② 76% 2学年(現3学年)① 29% ② 54% ①+② 83%	81%(前年比 5% 増)／ 2学年 ①32% ②45% ①+② 77%(前年比 6% 減)	
改善課題			
<p>・授業アンケート②～⑤の項目は昨年度より改善が見られたものの、成果指標である平均 90%には達していない。特に⑤「授業外で自ら行う学び(家庭学習)についての提案や助言」に関しては改善が見られるものの、引き続き課題が残る。</p> <p>・次年度は単位制1年目でもあり、初期指導の期間を4日間に拡大し「主体的な学習者の育成」の最初のステップであることを、全教職員と共有しながら実施します。</p>			
項目	取組内容・指標	結果	備考
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が必要な情報を自ら収集・分析・判断し、実際の行動に移せるような資質を養います。 面談等を通して生徒の進路希望を把握した上で、個に応じた進路指導を組織的に行います。 適切な進路情報を提供して、生徒の進路希望の実現を支援します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が将来について考える機会(生徒参加企画等)の提供 日々の学習と社会の接点を意識する活動(授業内活動・生徒参加企画等)の提供による生徒の社会貢献の意識の向上 面談週間の設置による生徒個別面談の実施 保護者面談の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3 学年 11 月時点生徒の第一進路希望実現率 60% 以上 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後の活動や長期休暇、LHR などを活用し、進路について具体的に考える機会を各学年で実施しました。また、本年度は、新しい企画として「京大キャンパスツアー」を日帰りを実施し、113名の生徒が参加しました。 全学年で年2回の面談週間を設置しました。また、1, 2学年は年1回、3学年は年2回の三者面談を実施しました。 11月時点の志望校(国公立、私立含む)に 61.9%の生徒が出願した。 	
改善課題			
<p>・進路意識を高めるための生徒参加企画を単発的なイベントに終わらせることなく、事前・事後の学習や振り返りを含めた継続的・体系的な取組にしていくことが必要です。</p> <p>・進路目標と日常の学習との関係を明確にし、教科指導と連携しながら基礎学力の定着を進路指導の視点から推進する必要があります。</p>			
項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育	<ol style="list-style-type: none"> 1.人権を重んじ、自由と責任を自覚した人間の基盤となる力をあらゆる教育活動の中で培います。 2.生徒の自主性を大切に人権学習を展開します。 <p>【活動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習 LHR の実施(1年生6回、2年生4回、3年生3回) ・人権アンケートの実施(1回) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で行う人権アンケート結果(満足度で、大変良かった・良かった 合わせて 90%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで 97%の生徒がこの1年間の人権学習の満足度で「大変良かった・良かった」と評価しました(前年比+1%)。 	
改善課題			
<p>・現3学年、2 学年と、2 年時の後期の人権 HR 学習において、人権問題を身近な自分に関係ある問題としてとらえることのできる授業内容に改善したため、生徒の評価は高くなりましたが、逆に 1 学年の満足度は低くなっています。部落問題学習についての知識が不十分であるため、身近な問題と受け止める生徒が減ったのではないかと考えられます。自主性を重んじながら生徒の人権意識を更に高めていく取組を検討していきます。</p>			

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒指導	<p>1 基本的な生活習慣の確立を目指します。</p> <p>2 社会生活におけるマナーの向上を目指します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全・登校指導週間実施(10回) 完全下校巡視、校内巡視の実施(随時) 情報モラル講座の実施(1回) 生徒会活動、HR活動、部活動、課外活動の奨励・各種集会での互いの人格を尊重し、他人を思いやる大切さにかかる講話等の実施(2回) いじめ防止月間における生徒主体のキャンペーン活動の実施(年2回) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動への加入率(3年生5月で 90%以上の継続※兼部を除く) 自転車通学生のヘルメット着用率(30%以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導を年 10 回実施しました。また、毎朝、校門や通学路での挨拶運動や登校の様子を見守りました。 生徒会行事や部活動を通じて、主体的にリーダーシップのとれる生徒の育成を目指しました。 お互いの人格を尊重するとともに、モラル等に関して意識づけをすることを狙いとし、集会等での講話(3回)を実施しました。 	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> より効果的な関わりとなるよう、生徒一人ひとりに応じたアプローチの仕方を工夫する必要があります。 SNS 使用に関するモラルやマナーの向上が必要です。 登下校時の交通ルールやマナーの向上が必要です。特に自転車のヘルメット着用率の向上が必要です。 			
項目	取組内容・指標	結果	備考
国際教育	<p>◇SSH事業等を活用した国際交流活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外の高校生や大学生との交流を通じて、国際的な視野の育成を図ります。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾の高校生とのオンライン交流、相互訪問の実施 教員を目指すベトナムの大学生の受け入れの実施 県内企業の海外拠点視察や研修の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾の高校生とのオンライン交流回数(8回以上) 台湾の高校生と交流する生徒ののべ人数(640人以上) 県内企業の海外拠点視察や研修への参加者(5人以上) <p>◇各種団体の主催する国際交流活動への参加を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 県教育委員会主催の海外研修等へ参加の推奨 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流活動参加生徒ののべ人数(320人以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 台湾中山高級中學の生徒との交流をオンラインで9回実施しました。参加生徒数はのべ 162 人でした。 7月に18人の生徒が中山高級中學を訪問しました。 1月に中山高級中學の生徒 20 人が来校し、本校1・2年生全員と交流しました。 7月に、県教育委員会が主催するベトナム研修に1人の生徒が参加しました。 12月に、企業の協力による、本校主催のベトナム研修を実施し、5人の生徒が参加しました。 2月にベトナムから8人の大学生が来校し、交流しました。 	

改善課題

- ・海外渡航に係る事前準備のスケジュールについて、教員と生徒の間での情報共有が十分ではなく、準備の進行にばらつきが見られました。今後は、スケジュールや役割分担をより明確にし、教員・生徒間での情報共有を一層強化する必要があります。
- ・SSH 台湾研修における相互訪問での学習について、国際的・科学的な視点を育成するという目的に対し、学習内容や活動の位置づけが必ずしも明確ではありませんでした。今後は、研修の目的を踏まえた学習プログラムを再整理し、より効果的な内容となるよう改善を図る必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
文化活動の推進	<p>◇読書生活指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校図書館は、読書生活を支える場、文化的教養を育てる場、自主学習の場、交流の場として、幅広い知識と豊かな情操を養う資料を収集整備して、活用の充実に努めます。また、授業や探究的な学びの材料や機会の提供や部活動等との連携を深めます。これらの活動を通じて文化的教養を育成します。 ・他校の図書館との連携も視野に入れ、これらの活動に取り組みます。 <p>【活動指標、成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書環境の整備、利用の促進(貸出 9,000 冊、生徒貸出率 50%) ・分掌・学年・教科等との連携、およびSSH、LHR、授業等への支援 ・読書感想文コンクール、読書感想画コンクールへの応募及び上位入賞 ・蔵書管理のシステム化、「学校図書館資料共有化ネットワーク事業」の推進 ・課題研究に関する支援としての図書の貸出促進 ・図書館文化講演会、ビブリオバトル、ギャラリー展示、青空図書館、図書館Live、車座トーク、図書館講座等生徒参加企画の実施 ・読書月間において読書に親しむ取組の実施 <p>◇芸術鑑賞の奨励</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA主催の芸術鑑賞補助事業等を実施し、保護者への参加を積極的に促します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞事業等への保護者の参加人数(250人) 	<p>貸出冊数 7,182 冊 生徒貸出率 44.7% (令和 7 年度末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館行事として以下を実施しました。青空図書館、図書館科学講座、文化講演会、図書館ライブ、車座トーク、校内ビブリオバトル大会など、343 人が参加しました。 ・今年度は地域との連携に力を入れ「青空図書館 in 観音公園」「新町小・津高生による朝の読み聞かせ」を実施し、51 人が参加しました。 ・第 71 回青少年読書感想文コンクールの結果 [三重県審査] 優良賞 2 名 ・第 37 回読書感想画コンクールの結果 [三重県審査] 努力賞 1 名 <p>・三重県総合文化センター大ホールにて芸術鑑賞会(音楽)を実施しました。生徒参加型の内容も含めた実施となり盛り上がりました。144名の保護者の参加がありました。</p>	

改善課題

- ・本年度より「探究推進部」と「図書部」を一体化した「探究・図書部」となったことから、今後も引き続き、探究に関わる読書活動を促し、支えていく必要があります。
- ・図書館の利用促進について、ギャラリーの利用を含む図書館の活用方法をさらに工夫し、図書館行事による来館者数の増加とともに、利用者数および貸出率の増加を目指します。
- ・読書感想文コンクールについて、本好きの生徒を増やし、自らの考えを文章にする大切な機会と捉え、意識の高揚を図ります。また、読書感動画コンクールについても、美術科や美術部と連携しながら、参加の促進を図ります。
- ・芸術鑑賞会については、限られた予算内での選定が難しくなっていますが、生徒が日頃体験できない芸術作品に触れることのできる貴重な機会と捉え、有意義な選定を引き続き行っていきます。

項目	取組内容・指標	結果	備考
健康教育	<p>◇保健管理と保健教育、健康相談</p> <p>1 心身共に健康で安全な生活を自主的に実践できる能力および態度の育成に努めます。</p> <p>2 健康診断、健康相談の充実と事後指導の徹底に努めます。</p> <p>3 学年毎の健康重点目標に沿った健康教育の充実を図ります。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健講話(各学年1回) ・「保健だより」の発行(年13回) <p>◇救急時の対応</p> <p>1 安全に対する意識を高める指導を行います。</p> <p>2 救急体制の充実を図ります。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AED 取扱いにかかる職員研修の実施(1回) <p>◇熱中症予防への取組</p> <p>熱中症への対策に留意した教育活動を実施します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WBGT 計による測定の徹底 ・体育祭の室内での実施(7月) ・体育館への空調設備の導入 <p>◇感染症予防への取組</p> <p>1 欠席状況調べや健康観察等を行い、感染症の早期探知及び生徒の健康状況を速やかに把握します。</p> <p>2 感染症を未然に防ぐ取組を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2 モニターやサーキュレーターの設定 ・感染症に関する保健指導等の実施 <p>◇教育相談</p> <p>1 全ての教育活動をとおして、生徒の悩みや不安の解決に向けた支援や対応を行います。</p> <p>2 生徒を取り巻く環境を把握し、支援や対応を行います。</p> <p>3 保護者、担任、学年主任、保健室、部活動顧問等と情報を共有しながら支援や対応を行います。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによる教育相談の実施(年30回以上) ・「教育相談だより」の発行(年3回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健講話:1年生「性教育」、2年生「薬物乱用防止教室」、3年生「受験期の健康管理」を実施しました。 ・「保健だより」は定期号を11回、修学旅行前特別号(2年生)を1回、受験準備号(3年生)を1回発行しました。 ・消防署職員による救急救命講習を全教職員対象に行いました。 ・体育科と連携し、体育授業時のWBGT測定を行いました(5月上旬～9月下旬)。WBGT値が31を超えた際には運動中止の措置を取りました。 ・CO2 モニター、手指消毒液自動噴霧器、サーキュレーターの設定等、感染症対策を継続して実施しました。 ・スクールカウンセラーによる教育相談は、41回実施しました。 ・発達障がい支援員による面談は3回実施しました。 ・教育相談だよりは4月と8月、1月の計3回発行しました。 	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭は屋内運動施設で開催しましたが、6月のレクリエーション大会は屋外開催予定でした。WBGTが31を超えたため、結果として屋内競技のみの開催となりましたが、熱中症予防の観点から、来年度以降の開催日数・場所の検討が必要です。 ・継続して安全意識を高め事故の未然防止に努めるとともに、部活動・授業時・学年レク・校内移動時等、あらゆる場面において事故は発生するため、危機時の救急体制を教職員間で共有し、より強化していく必要があります。 ・教育相談については、担任、保護者、学年主任、養護教諭、管理職、関係する専門家と密に連携を取りながら、生徒の支援を行いました。自ら相談に訪れる生徒は少ないので、相談しやすい環境を作り、担任や学年主任、養護教諭と情報を共有し、丁寧な支援を行っていく必要があります。 			

項目	取組内容・指標	結果	備考
防災教育	<p>◇防災学習の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 避難経路、避難方法を年度当初において確認します。 2 実際の場面を想定した避難訓練を実施します。 3 「防災ノート」を活用した防災学習を実施します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練、防災学習の実施(年各1~2回) ・ 学校防災ボランティア事業への生徒参加及び全校生徒への還元行事の実施(1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎内からの避難経路について生徒、教職員で確認、共有しました。(4月) ・ HR 中を想定し、校舎外へ一斉避難する訓練および屋上へ避難する訓練を行いました。また、「防災ノート」を用いた防災意識を高める学習を行いました。(6月) ・ 学校防災ボランティア事業に3名の生徒が参加し、能登で活動を行いました。3月に全校生徒に向けて活動報告を行っていただきました。 	

改善課題

- ・ 1年生が早く避難経路を知るために、避難訓練の実施時期を10月から6月に変更し、レクリエーション大会3日目の全競技終了後に実施しました。それが大きな問題となったわけではありませんが、さらによりよい実施時期がないか、検討する必要があります。
- ・ 防災ノートを用いた学習内容について、各学年に委ねるのではなく、学校として計画的に学習内容を決めておく必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
探究的活動の推進とSSH事業への取組	<p>◇世界を牽引する次代の科学技術人材の育成を目的とした、「探究活動を核とし、すべての教育活動へつなげる科学教育システム」を確立します</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 探究的な学びによる生徒の資質・能力の変容の検証による新たな学びの確立に取り組みます。 2 外部機関(大学/企業/海外)等との連携による専門性の高い学びの実現に取り組みます。 3 教育資源の還元による中核的拠点校としての活動を充実します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「SS探究活動Ⅰ」において、「リベラルアーツ」、「SS博学科学」、「試行的な課題研究」の実施 ・ 「SS探究活動Ⅱ」において、1年間にわたる「課題研究」の実施、「SSH児童・生徒研究発表会」での研究成果の発表 ・ 「SS探究活動Ⅲ」において、2年次の研究成果の論文作成、英文要旨作成、学会やコンテストでの発表 ・ 「SSH台湾研修」において、オンライン交流および相互訪問の実施 ・ 「SS先進科学」「SS生命科学」「SS特別講義」の実施 ・ 「みえ探究フォーラム」、「国際科学技術コンテスト強化講座」、「三重県高校生学会」、中学生向け探究活動体験講座「探究道場」、「小中学生向け科学講座」等の実施 ・ 津高SSHホームページにおいて活動報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「SS探究活動Ⅰ」において、すべての1年生が「リベラルアーツ」、「試行的な課題研究」を実施しました。一部の生徒が「SS博学科学」に参加しました。社会人を中心とする外部メンター20人に支援いただきました。 ・ 「SS探究活動Ⅱ」において、1年間にわたる「課題研究」を実施しました。すべての2年生が「SSH児童・生徒研究発表会」で研究成果を発表しました。三重大学生を中心とする外部 TA 18 人に支援いただきました。 ・ 「SS探究活動Ⅲ」において、すべての3年生が、2年次の研究成果の論文を作成しました。一部の生徒が学会やコンテストで発表しました。 ・ 「SSH台湾研修」において、オンライン交流および 	18

		<ul style="list-style-type: none"> び相互訪問を実施しました。 ・「SS先進科学」「SS生命科学」「SS 特別講義」を実施しました。 ・「みえ探究フォーラム」、「国際科学技術コンテスト強化講座」、「科学系クラブ合同交流会」、「探究道場」を実施しました。 ・津高SSHホームページにおいて活動報告をしました。 	
--	--	--	--

改善課題

・これまでの探究活動では、生徒の主体性を尊重する一方で、問いの質や探究プロセスの定着、教科学習や進路との接続、支援体制の体系化に課題が見られました。今後は、「私はなぜ学び続けるのか？」を軸に、問いの設定から評価までを3年間で一貫して育成する探究モデルへと再構築していきます。外部支援や共通指標を活用し、生徒の成長を可視化しながら、教員の経験に依存しない持続可能な探究指導体制の確立を図ります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
環境・美化教育	◇環境美化、公共性の向上に向けた取組 【活動指標・成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会による清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバック(年3回) ・美化委員によるゴミ分別のチェック(学校環境週間・大掃除時) ・生徒のアイデアを取り入れた環境美化活動の実施 ◇環境問題に対する意識の醸成 【活動指標】 <ul style="list-style-type: none"> ・「環境週間」を設け、うち一日を「学校環境デー」として美化委員と生徒ボランティアで美化活動を実施(年1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会を8回開催し、清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバック等を行いました。 ・学校環境週間や大掃除、学校行事の際に、ゴミの分別チェックを美化委員が行いました。 ・学校環境デーを5月28日に実施しました。雨天であったため、美化委員の生徒を中心に校内の窓拭きを行いました。 	

改善課題

・ゴミの分別は、地域によって分別方法が異なるため、分別が紛らわしいゴミについては、生徒・教職員への周知を徹底する工夫が必要です。
 ・来年度より清掃日数が減少するため、校内美化やゴミの処分について日頃からの徹底が必要です。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標とします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標とします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力向上の取組と教育課程の研究・改善	<p>◇授業力向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究や授業公開、授業評価等をとおして、授業力の向上を図ります。また、ICTを活用することによって教員の業務負担を軽減し、取組に必要な時間を生み出します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座ごとの授業時数を定期考査ごとにそろえ、かつ年間授業時数を年度当初に提示することで、各教員が見通しを持った授業を展開できるよう支援する ・授業アンケートなど生徒からのフィードバックを受け取る機会の充実(年2回以上) ・ICT活用事例または探究的な学びに関する授業実践報告を実施し、HPIにおいて発信(各教科年2回) ・研究授業の実施(各教科年1回) ・授業公開Weekの実施(年2回) ・保護者対象の授業公開の実施(年1回) ・学習指導委員会において授業進捗の調査・把握(年1回) ・ICTの活用について、特にiPadの授業における活用をサポートし、必要に応じて講習会を実施(年2回) ・学校業務のデジタル化の促進 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、授業アンケートの結果を、授業改善のための資料として活用し、成果を検証 <p>◇単位制導入に向けての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度からの単位制の導入に向けて、適切な情報発信を行い、本校の教訓である「自主・自律」に基づいた取組が、すべての教育活動で実践できるよう、議論を深めていく。また、既存のルールや慣習などについても再考し、必要に応じて変更していくことで、本校が目指す学校の姿に着実に近づくよう努める。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制導入後の教務内規について検討・刷新し、学習者および指導者が安心して活動できる土台を形成する ・効果的な教育活動が展開されるよう、校時について検討し、その目的に照らし合わせ最適なものになるよう努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座ごとの授業回数を定期考査ごとにそろえ、かつ年度初めの各回数を提示することで見通しを持った授業展開を促進しました。 ・授業アンケートを年2回実施し、後期の実施を12月に早めたことで、長期休暇を利用した授業改善がより効果的に行えるようになりました。 ・ICT活用事例または探究的な学びに関する授業実践報告を実施し、HPで発信する活動を年1回実施しました。 ・各教科で研究授業を年1回実施しました。 ・保護者対象の授業公開を実施しました。 ・学習指導委員会にて授業進捗を調査・把握し、授業進捗保証を行いました。 ・ICTの活用についてのサポートおよび業務の自動化とその提案を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・単位制の導入について津高校入門講座および学習塾対象の説明会、各中学校での進路説明会等で説明をしました。 ・教務規定や学則の改訂を行いました。 	◎

	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制時間割や講座編成などについてシミュレーションを重ね、スムーズな導入を目指す ・教科間の対話を促進し、各教科の多様性を尊重しつつも、教育活動全体としての一貫性が確保されるよう調整を図り、主体的な学習者の育成に向けた教育活動が展開されるよう努める。 ・すべての授業において、探究的な学びが実践されるよう、学習指導委員会を中心に「探究的な学びの実践」について議論を深める。 		
--	---	--	--

改善課題

<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究や授業公開、授業アンケート等の取組は継続的に実施できているが、授業改善の成果を教科内外で共有し、授業力向上につなげる組織的な仕組みについて検討したい。また、ICT 活用は進んでおり、iPad の導入等でさらに加速しているが、実際に「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善に結びついているかが疑問である。また、ツールが増えることで混乱が生じないよう、適度にルールや棲み分けを行いながら、適切な ICT 環境を提案していきたい。 ・単位制導入に向け、制度整備や情報発信は進んだが、令和8年度からの円滑な実施に向けて、時間割運用、履修指導、評価運用等の具体的な運用体制の整備をさらに進める必要があります。
--

項目	取組内容・指標	結果	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に関する情報共有 ・大学入試問題の分析や校内外模試を活用することによる教員の資質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ◇進路指導に関する情報共有 ・生徒の進路決定に必要な情報を学年団に随時提供し、データを効果的に活用した指導体制を構築します。 【活動指標】 ・大学入試の変更等にかかる情報提供 ・校内外の試験の結果を基にした学年での成績分析会や進路検討会議の実施 ・各大学の説明会や各予備校等の分析会の情報発信 ◇教員の資質向上 ・大学入試問題や校外模試の分析、校内模試の作問・分析を通して教員の資質向上を図ります。 【活動指標】 ・各予備校等の分析会・入試問題研究会の情報発信 ・校内模試の実施による作問・分析力の向上 【成果指標】 ・先進校視察の実施(年2回程度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学、予備校が発表している情報を整理し、学年団または全職員に随時伝えることができました。 ・校内外の成績データをもとに各学年と情報交換や指導方針の共有ができました。 ・予備校等の分析会・大学説明会の情報を適宜共有し、教員の参加を促しました。 ・全学年で年2回の校内模試を実施し、進路指導の資料として活用しました。 ・先進校視察を3回実施しました。 	

改善課題

<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供の効率化が進んだ一方で、情報量の増加により必要な情報を把握しにくい状況も生じているため、情報の整理や提示方法の工夫が必要です。 ・大学入試の多様化を踏まえ、生徒一人一人の進路希望や状況に応じた指導を行うとともに、面接指導や小論文指導など、多様な入試形態に対応できる指導力を教員全体で高めていく必要があります。
--

項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育に関わる情報、方法の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人権教育に係わる研修、フィールドワーク、研究会等への参加を促進します。 【活動指標】 ・校内研修会の開催(年3回) ・「人権だより」の発行 ・人権教育推進委員会の開催と情報の共有 ・人権教育推進協議会の開催及び人権教育推進計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権意識の向上に向けた校内研修」を2回行いました。(7月・3月) ・人権教育推進委員会を7回、人権教育推進協議会を2回開催し、委員から多くの意見をいただきました。 	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人権意識を高めるためには、各教職員自身が「学び続け」なければなりません。そのために、校内研修の充実や、校外で開催される様々な研修への参加を勧め、「人権教育の今」を学ぶ必要があります。 			
項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒情報および指導方法の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒理解に基づいたきめ細かな支援を行います。 【活動指標】 ・学年会等での生徒情報の共有 ・面談週間をはじめ、随時面談を実施 ・綿密な保護者との連携、情報共有 ・より良い関係構築に向けた校内での情報共有 ・特別支援教育や教育相談にかかる教員研修の実施(年1回) ・特別支援教育推進委員会の実施(年2回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会を週1回程度時間割の中に入れて実施、生徒情報の共有をこまめにおこないました。 ・教育相談に関する研修会を9月に実施しました。 ・特別支援教育推進委員会を年2回(4月・1月)実施しました。 	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・面談週間など、担任と生徒が面談する機会を持ち、きめ細やかな支援につなげていきます。 ・今後も生徒支援につながる有意義な研修を定期的実施し、教職員が学び続ける必要があります。 			
項目	取組内容・指標	結果	備考
働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選や改善、校内組織の点検等を行い、総勤務時間縮減を図ります。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100% ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 90%以上 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員のべ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 25時間以下 ・1人当たりの年間休暇取得日数 20日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校できた教職員の割合 97% ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100%(3月末現在) ・60分以内に終了した会議の割合 93.3% ・年360時間を超える教職員の人数 30人 ・月45時間を超える教職員の延べ人数 137人 ・月平均時間外在校時間 28.7時間 ・年間休暇取得日数平均 23.9日 	

改善課題

・昨年度と比べ、年 360 時間を超える教職員数や月 45 時間を超える教職員数は減少しました。しかし、特定の期間に時間外労働が増加する傾向は依然として見られます。そのため、定時退校日や部活動休養日の設定などを行い、総勤務時間の縮減に向けた取組を引き続き進めていきます。

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>広聴・広報活動</p>	<p>◇学校関係者評価委員会による学校評価を実施し、その意見を効果的に改善につなげます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員会の実施(年2回) ・学校関係者評価委員による授業(もしくは学校行事)参観および生徒との対談の実施(年1回) <p>◇ホームページ(HP)の活用、自治会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPを活用し、積極的に情報発信を行います。また、「津高校だより」等を通じて、地域の方々等に本校の現状や取組についてお知らせします。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡や行事等の活動・成果を掲載するためのHP更新(年間100回以上) ・「津高校だより」の発行(年間3回程度) ・報道機関への情報提供(年間30回程度) <p>◇津高入門講座(8月)、学校見学会(8月)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津高入門講座において、生徒スタッフによる本校の紹介等を通して、本校の魅力を広く伝えます。 ・学校見学会において、本校の教育活動を理解してもらうため、授業の様子や在校生が実際に活動している様子を中学生やその保護者に公開します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津高入門講座・学校見学会への参加促進と円滑な運営、参加人数およびアンケート結果 <p>◇学校PR用動画、パンフレットの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となって学校PR用の動画およびパンフレットを作成し、広報活動に活用します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各中学校(生徒・保護者)への必要数を配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員会を2回実施しました。 ・学校関係者評価委員による授業参観および生徒との対談を1回実施しました。 ・HPの更新をこまめに行うことができました(100回以上)。 ・津高だより3回発行 ・報道機関への情報提供15回(1月末現在) ・津高入門講座(8月)には中学生518名、保護者477名の参加申込がありました。 ・学校見学会(8月)には中学生732名、保護者386名の参加申込がありました。 ・アンケートの結果で「受検校選択の参考になった」との回答が津高入門講座で95%、学校見学会で94%でした。 ・来年度の単位制導入に向けて学校案内のデザインや内容を刷新し、入門講座や学校見学会で配布しました。 ・各中学校に学校案内を必要数配布しました。 	

改善課題

・津高入門講座において、生徒による学校紹介は大変好評で、今後も継続しておこなっていききたい。来年度は会場の関係で「2回公演」となるので、生徒スタッフの募集を丁寧に行う必要があります。

・学校見学会は、中学生にとって生の授業を観ることのできる貴重な機会となっています。暑い時期の実施となっていることについて、実施時期の変更も検討しましたが、「暑い」ということを除けば8月に実施するのがよいという意見が大勢を占めました。暑さへの対策をどうするか、よりよい実施方法を模索する必要があります。

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○令和8年度から導入される「進学型単位制」のメリットを最大限活かし、生徒の個性を認め、伸ばさせる津高校であり続けてほしい。 ○探究学習を軸に教養主義を大切にしながら、全人的な教育を実践して行ってほしい。 ○本当の「自主・自律」を目指し、生徒が「自走する」状況を、常に全教職員が意識して教育にあたってほしい。 ○生徒の教養を高めるうえで、車座トークや芸術鑑賞会などの機会は大切である。引き続きさまざまな外部の大人に関わってもらい、さまざまな刺激を与える機会を継続して創ってほしい。 ○引き続きホームページをこまめに更新することに加え、SNSも活用し、学校での状況を広く発信して行ってほしい。 ○高校入門講座などにおいて、生徒主体で学校をPRしていることは素晴らしい。報道資料提供にも注力し、メディアに取り上げてもらえる頻度を高めて行ってほしい。 ○働きやすい職場づくりは喫緊の課題である。時間外勤務削減や必要な時に遠慮なく休みを取りやすくするなど、抜本的な解決策を検討すべきだ。
----------------------------	--

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○授業アンケート②～⑤の項目は昨年度より改善が見られたものの、成果指標である平均90%には達していない。特に⑤「授業外で自ら行う学び(家庭学習)」についての提案や助言に関しては改善が見られるが、引き続き改善する必要がある。 ○令和8年度は単位制1年目でもあり、初期指導の期間を4日間に拡大し「主体的な学習者の育成」の最初のステップであることを、全教職員と共有しながら実施する必要がある。 ○令和8年度から60分授業にすることにより生み出されるオフィスアワーなどの余白が一人ひとりの生徒により活用され自律的な学びが一層促されるようSHRや面談のあり方を含め検討し、改善に取り組み、不登校傾向の生徒への支援にもつなげる。 ○授業力向上に係る研修を校内の組織的な仕組みに組み入れ、学び続ける体制を強化する。 ○ICT活用について、ツールが増えることで混乱が生じないよう、適度にルールや棲み分けを行いながら、適切なICT環境を確立することが求められる。 ○進路目標と日常の学習との関係を明確にし、教科指導と連携しながら基礎学力の定着を進路指導の視点から推進する必要がある。 ○大学入試の多様化を踏まえ、生徒一人一人の進路希望や状況に応じた指導を行うとともに、面接指導や小論文指導など、多様な入試形態に対応できる指導力を教員全体で高めていく必要がある。 ○SSH 台湾研修における相互訪問での学習について、前年踏襲にこだわらずに研修の目的を踏まえた学習プログラムを再整理し、より効果的な内容となるよう改善を図る必要がある。 ○図書館の利用促進について、探究における活用度合いが高まるよう工夫することで図書館行事の活性化や利用者数および貸出率の増加を目指す。 ○探究活動では、「私はなぜ学び続けるのか？」を軸に、問いの設定から評価までを3年間で一貫して育成する探究モデルへと再構築するとともに、外部支援や共通指標を活用し、生徒の成長を可視化しながら、教員の経験に依存しない持続可能な探究指導体制を確立する。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○単位制導入に向け、制度整備や情報発信は進んだが、令和8年度からの円滑な実施に向けて、時間割運用、履修指導、評価運用等の具体的な運用体制の整備をさらに進める必要がある。

	<p>○スクール・サポート・スタッフ(SSS)の活用等による業務の改善により、年 360 時間を超える教職員数、月 45 時間を超える教職員数は、昨年度と比較し減少した。しかしながら、特定の期間に時間外労働が増加する傾向は依然として見られる。そのため、定時退校日や部活動休養日の設定や必要な時に休暇を取りやすくする体制を組織的に作り、総勤務時間の縮減に向けた取組を継続する必要がある。</p> <p>○令和8年度から始まる進学型単位制を軸に「津高らしい」学校の魅力がより伝わるようPRを工夫する必要がある。</p>
--	---